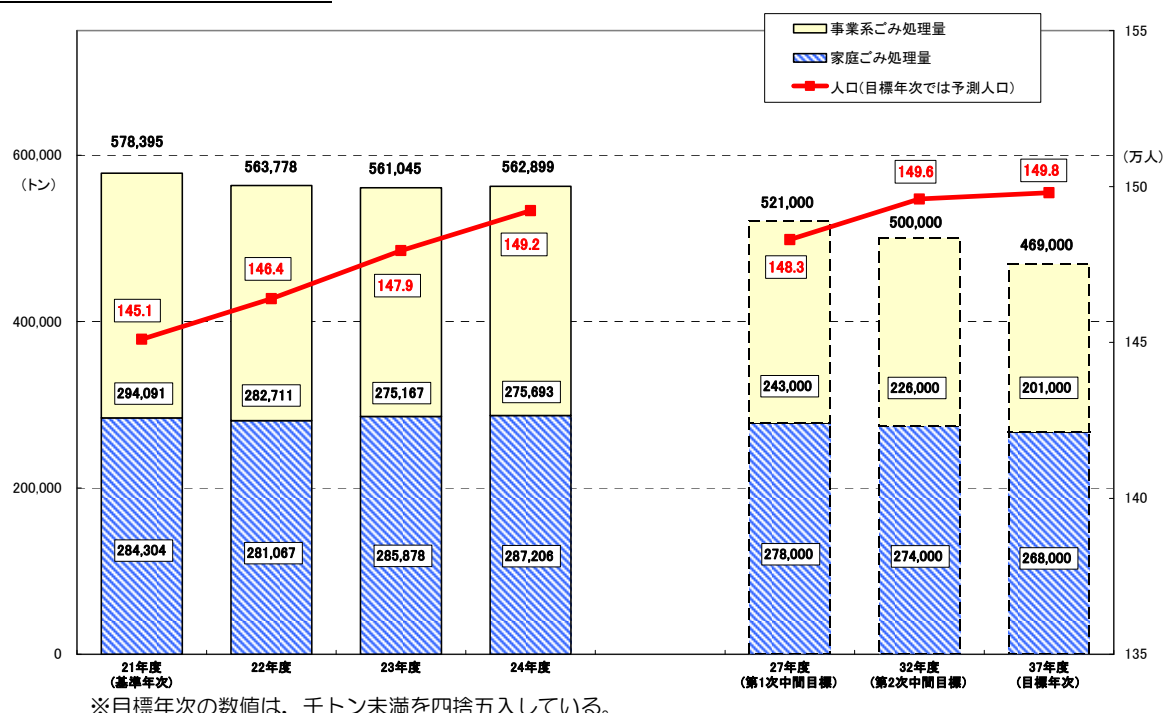


新循環のまち・ふくおか基本計画の進捗状況について

数値目標① ごみ処理量



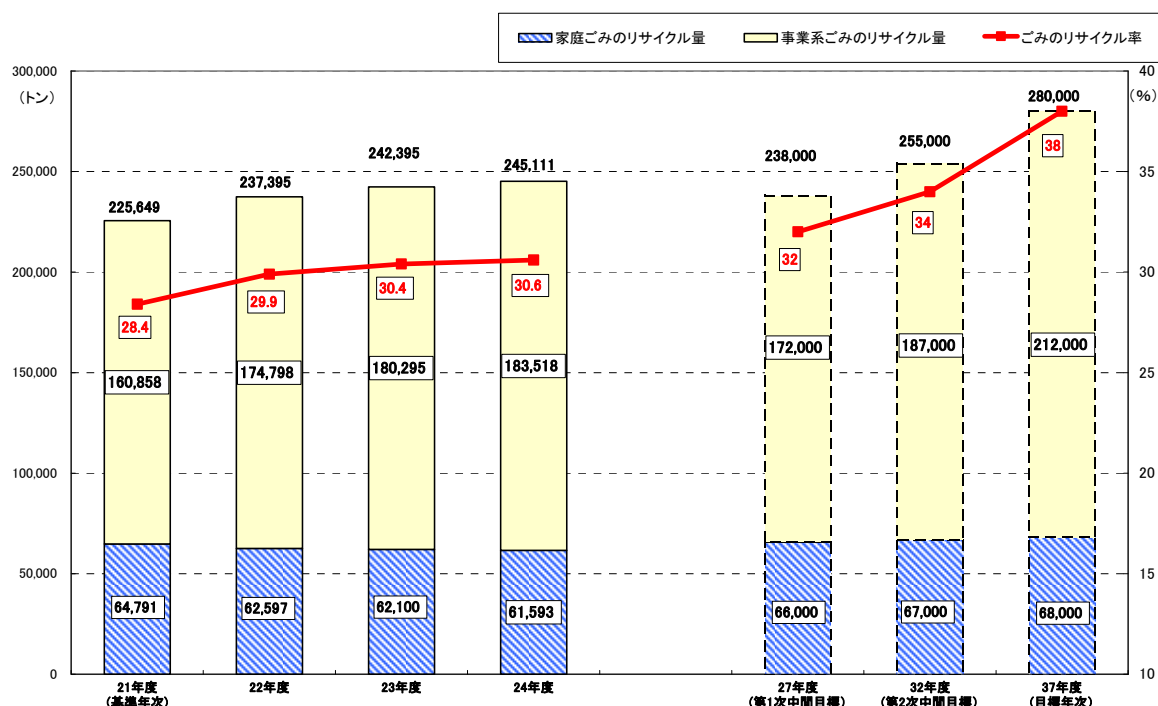
【 評 価 】

平成24年度のごみ処理量は、約56万3千トンとなっており、基準年次の平成21年度と比較すると、約1万5千トンの減となっていますが、前年度との比較では、ほぼ横ばいとなっています。

家庭ごみについては、平成22年度までは一貫して減少傾向を示していましたが、平成23年度から微増となっています。これは、市民一人一日あたりのごみ処理量(原単位)は横ばいであるものの、人口が毎年1%程度伸びているため、全体のごみ処理量としては増加したと考えられます。

事業系ごみについても、平成23年度までは減少していましたが、平成24年度は横ばいとなっています。これは、建設業を中心に業績回復傾向が見られることや、市内のオフィス空室率の低下、有効求人倍率の上昇などから、景気が回復傾向にあり、ごみ量にも影響を及ぼしていると考えられます。

数値目標② ごみのリサイクル率



※目標年次の数値は、千トン未満を四捨五入している。

【 評 価 】

平成 24 年度のリサイクル率は、30.6%となっており、基準年次である平成 21 年度と比較して 2.2 ポイント増加しております。

リサイクル量についても、全体で約 2 万トン増加していますが、前年度との比較では、微増となっています。

家庭ごみのリサイクル量は減少が続いていますが、これは、全国的に紙の生産量、印刷物の生産量が減少傾向にあり、それに伴って地域集団回収等における古紙回収量も減少しているためと考えられます。

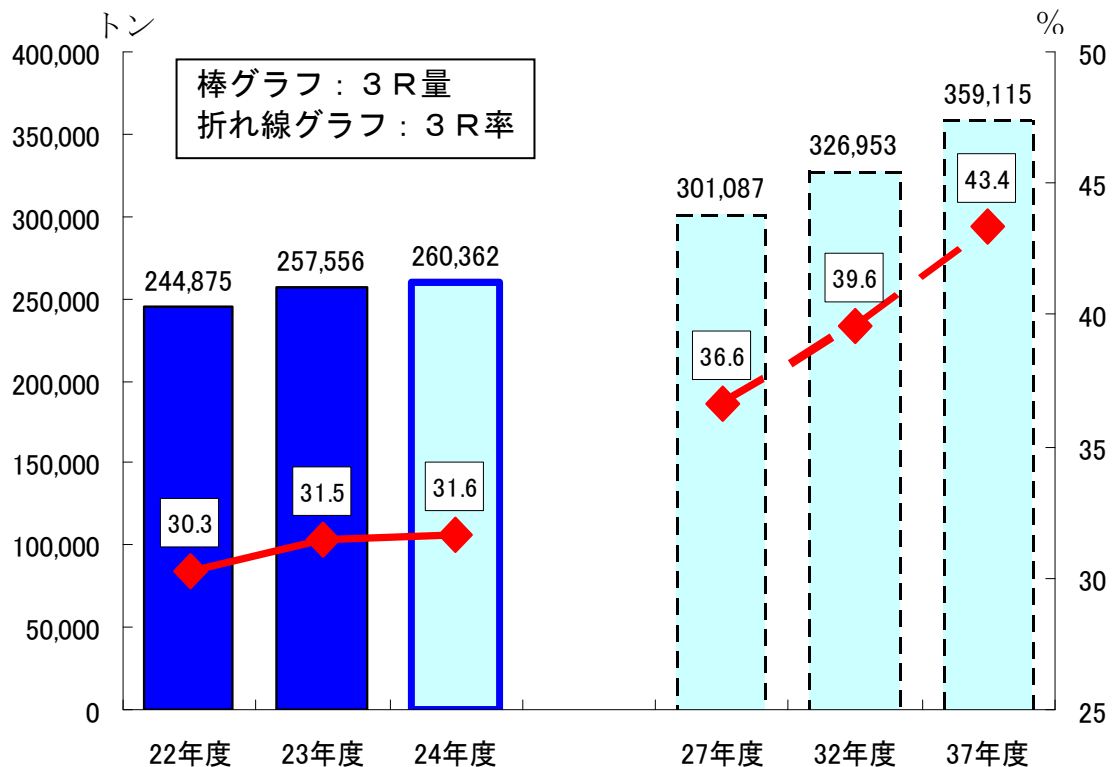
一方、事業系ごみのリサイクル量は、排出事業者への指導や各種資源化促進事業の効果により、古紙回収量が増加しているため、平成 21 年度と比較すると、約 2 万 2 千トン増加しております。

取組指標① 3 R率 (ごみの発生量に対する3 Rが実践された比率)

【目的】

ごみ発生量の削減のために、2 R (リデュース・リユース) の取組みの成果を把握する。

【実績】



【評価】

平成 24 年度の 3 R 率は 31.6% であり、前年度から 0.1 ポイントの増になっています。

3 R 量も前年度から約 1 % の微増となっておりますが、下表に示しているとおり、発生抑制、再使用量を示す 2 R 量は、ほぼ横ばいとなっています。

そのため、より一層 2 R に重点をおいた啓発を進めごみ発生量の抑制に努める必要があると考えます。

< 3 R 率の算定方法 >

原単位 (市民 1 人 1 日あたりごみ発生量) の減少量 : 28g/日・人 (H23n: 28g/日・人)
 = 平成 21 年度の原単位 1,500g/日・人 - 平成 24 年度の原単位 1,472g/日・人

2 R 量 : 15,251 トン (H23n: 15,161 トン)

= 原単位の減少量 28g × 年間日数 365 日 × 平成 24 年度の推計人口 1,492,254 人

3 R 量 : 260,362 トン (H23n: 257,556 トン)

= 2 R 量 15,251 トン + 平成 24 年度のリサイクル量 245,111 トン

3 R 率 : 31.6% (H23n: 31.5%)

= 3 R 量 260,362 トン ÷ (平成 24 年度のごみ処理量 562,899 トン + 3 R 量 260,362 トン)

取組指標② 3Rの実践度（市民の3Rの行動の広がりを示す指標）

【目的】

3Rの実践が市民に広まっているかどうかを把握する。

【実績】

○ ごみ減量・リサイクルへの関心度，3Rの認知度

	21年度	24年度	前回比
関心度	90.9%	90.2%	-0.7ポイント
リデュース	38.2%	42.9%	+4.7ポイント
リユース	49.8%	52.8%	+3.0ポイント
リサイクル	89.1%	89.0%	-0.1ポイント

※市政に関する意識調査

【評価】

平成24年度の市民意識調査の結果によれば、ごみ減量・リサイクルへの関心度は9割を超えており、多くの市民が、ごみ減量・リサイクルに関心を持っていることがわかります。

また、リデュース、リユースに関しては平成21年度と比較して、認知度が確実に向上しています。

○ 3Rの実践状況

実践項目		実践率		
		21年度	24年度	前回比
リデュース	レジ袋辞退	63.3%	63.8%	±0ポイント
	詰替商品の購入	58.8%	82.0%	+23.2ポイント
	生ごみの削減	53.1%	59.1%	+6.0ポイント
	計画的な購入	46.1%	51.0%	+4.9ポイント
リユース	フリーマーケット等の活用	24.3%	34.9%	—
	知り合いへの譲渡	33.5%		
リサイクル	集団回収の利用度	65.6%	—	—
	古紙回収ボックスの利用度	34.9%	—	—

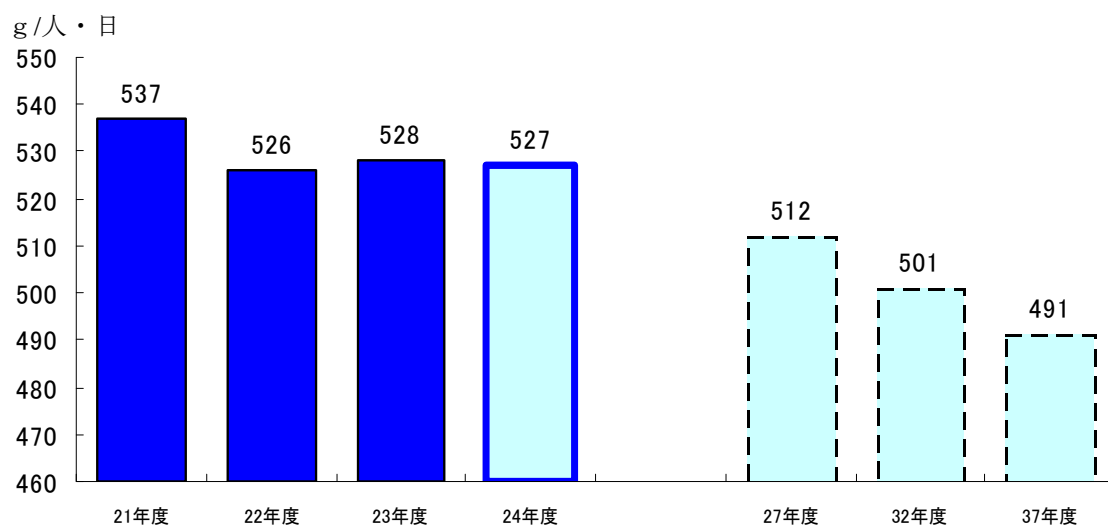
【評価】

3Rの実践状況については、平成24年度の市民意識調査によると、詰め替え商品の購入をはじめとするリデュースの実践度が伸びてきており、全ての項目について、前回の調査に比較して向上しています。

【参考】レジ袋削減協定参加事業者におけるマイバッグ持参率

21年度	22年度	23年度	24年度
43.9%	45.1%	46.1%	50.7%

○ 市民1人1日あたりの家庭ごみ処理量（＝原単位）



【 評 価 】

市民1人1日あたりの家庭ごみ処理量については、平成22年度以降横ばいとなっています。

平成27年度目標の512gを達成するためには、既存の施策の見直しや強化、新たな施策の実施が必要と考えます。

【 総合評価 】

3R実践度については、徐々に浸透してきているものの、リデュース・リユースについては、さらに継続的な啓発を進めるとともに、リサイクルについては、回収する資源物の種類を増やすことを検討する必要があると考えます。

取組指標③ 有害廃棄物等適正処理の実践状況

(有害廃棄物等に対する認識や取り組みを示す指標)

【目的】

環境負荷の低減のために、市民が蛍光灯などの適正処理に取り組んだ頻度を把握する。

【実績】

○ 蛍光灯の持参率・回収量

	21 年度	24 年度
蛍光灯の持参率※	10.9%	—
蛍光灯の量(トン)	1	1

※区役所等の回収拠点への持参率(市民意識調査にて把握)

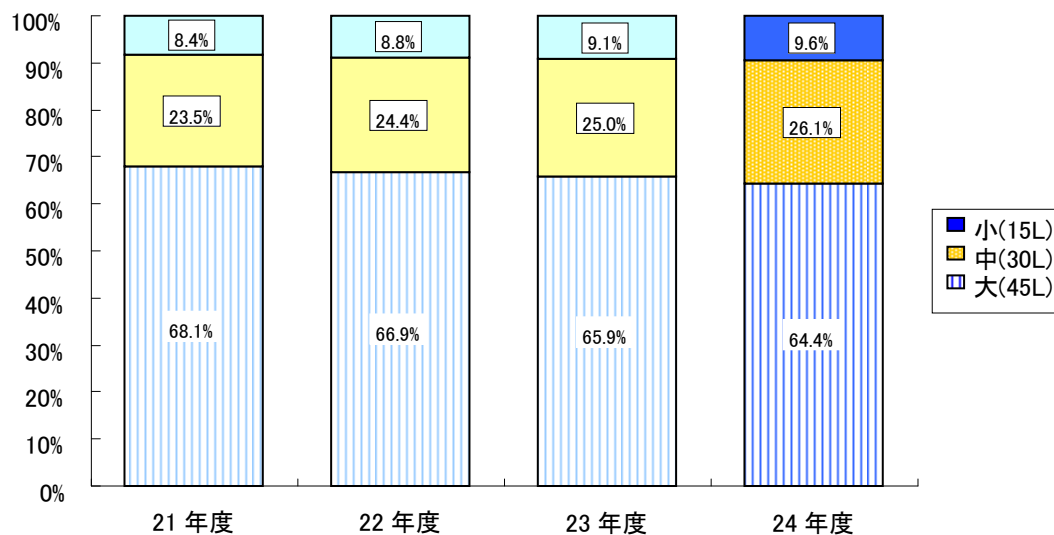
蛍光灯などの適正処理の取り組みについては、平成 24 年度は意識調査を実施していないので、平成 25 年度に実施する市民意識調査の結果を踏まえ、今後検討していくこととしています。

取組指標④ 家庭ごみの容積

【目的】

家庭ごみの減容化の進捗状況を確認するため、家庭用可燃ごみ袋の販売数を把握する。

【実績】



【評価】

家庭用可燃ごみ袋の販売実績によると、大袋の割合が毎年度確実に減少しており、平成 21 年度の構成比と比較すると、大袋が約 4 ポイントの減少、中袋は約 3 ポイントの増加、小袋は約 1 ポイント増加となっています。

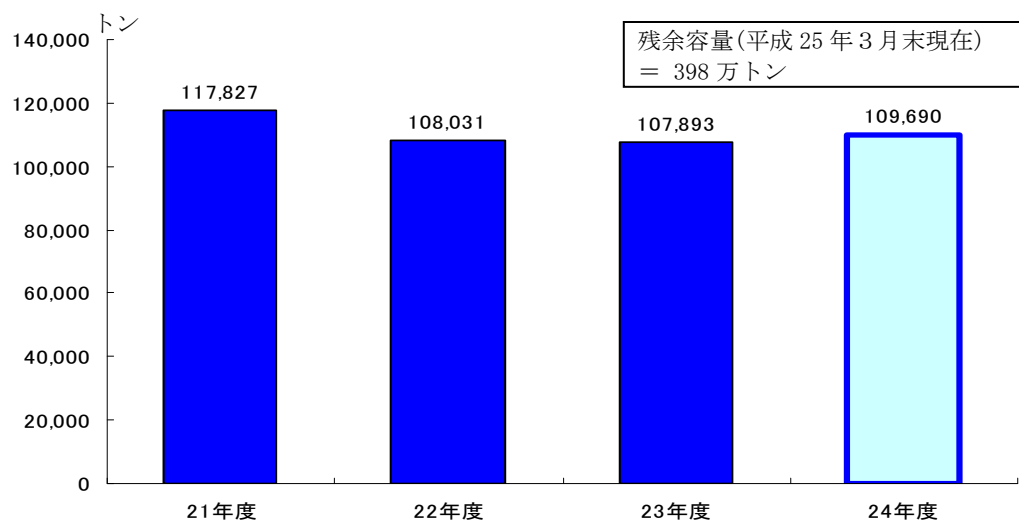
この間の人口動態を見ると、単身世帯の増加による影響も考えられますが、販売実績上は確実にごみ袋の減容化が進んでいると判断されます。

取組指標⑤ 埋立処分量

【 目 的 】

埋立場の延命化のために、埋立処分量の削減が進んでいるか把握する。

【 実 績 】



【 評 価 】

埋立処分量は、毎年度減少しておりますが、平成 24 年度の埋立処分量は他都市の罹災ごみの受け入れ等により微増となっています。

取組指標⑥ 温室効果ガス排出量 → 保留

廃棄物の焼却等に伴う温室効果ガスの排出量の削減目標については、「新福岡市地球温暖化対策実行計画」のなかで示されることとなっておりますが、現時点で、国の新しい地球温暖化対策計画が示されておらず、「新福岡市地球温暖化対策実行計画」の策定も進んでいないため、この取り組み指標については保留としています。